子どもの放課後活動を活性化するには ～冒険遊び場を例に～

3月29日(日)、本学10号館において「子どもの放課後活動を活性化するには～冒険遊び場を例に～」と題した講演会およびディスカッションを開催しました。

この講演会・ディスカッションは、本学が松戸市から受託した「子育てを通じた地域づくり人材育成事業」の一環として実施しました。参加者には、同事業の一環として平成26年度11月から2月にかけて実施した、パパのための子育て支援講座「パパ出番ですよ」「地域の大人たちによる松戸子育て応援団養成講座」の受講生も多数見られました。

講演会では、大正大学特命教授の天野秀昭先生をお招きし、「冒険遊び場」を活用した子どもの放課後活動、松戸市における「冒険遊び場」実現の可能性についてお話しいただきました。

「冒険遊び場」とは、第二次世界大戦のさなか、コペンハーゲン市郊外につくられた「エンドラップ廃材遊び場」を起源とする子どもの遊び場です。廃材とロープ等による手作りの遊具が置かれ、可能な限り禁止事項を作らず、子どもたちの「やってみたい」という気持ちを大切にしている施設です。天野先生は、1979年に設立した、日本初の「冒険遊び場」である「羽根木プレイパーク」の初代プレイリーダーで、長年、冒険遊び場を広げるための活動をされてきました。

講演する天野秀昭先生

天野先生は講演中、「遊育」の可能性についてお話しされました。「遊育」とは、子どもたちが遊びの中で育っていくことを大切にし、大人が「学ばせたい」と思うことを押し付けず、子どもの「やりたい！」という気持ちを大切にした考え方です。そうして、ありのままの自分で居られる場所があることが、本当の意味での子どもの居場所になるとのお話をいただきました。

その後、児童学科の神谷明宏先生がコーディネーターとなり、天野先生、参加者を交えたディスカッションを行いました。参加者からは、「子育てにおいて、どうしても大人の常識にとらわれた考え方になってしまうが、本来大事なことを改めて気付かされた」「遊ぶことの大切さ、人間として生きる原点に気が付く機会となった」等の声をいただきました。

ディスカッションの様子(写真左が神谷明宏先生)

参加者にたくさんの気付きをもたらせた講演会・ディスカッションでした。

(生涯学習研究所　助手　有川　かおり)